

夏に流行始まるRSウイルス感染症

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆63◆

RSウイルス。それほど有名ではないウイルスなので、ご存じの方は少ないかもしれません。以前は、秋から冬に流行すると思われていましたが、調査が進むと、実は夏から流行が始まっていることが分かってきました。特に乳児や高齢者には、夏の咳にも注意いただきたい。今回はRSウイルス感染症についてお話しします。

▽RSウイルス感染症とは
RSウイルスは「Respiratory Syncytial Virus (レスピラトリー・シンシチアル・ウイルス)」の略で、レスピラトリーとは「呼吸器の」を意味し、シンシチアルは、このウイルスを培養検査すると多核巨細胞(シンシチウム細胞)が作られることを現す名前ですが、呼吸器に感染すること以外はわかりにくい。そのため、そのままRS(アールエス)ウイルスと呼ばれています。

▽繰り返し感染
RSウイルスは、感染しても免疫がで

きにくいウイルスです。そのため、赤ちゃんから高齢者まで、何度も感染を繰り返します。このことから、ワクチンはありません。

▽年齢により異なる病状

代表的な呼吸器感染症のインフルエンザと比べてみると、流行する時期は、RSウイルスは夏から年末までが多く、インフルエンザは年末から春までなので、流行のピークはRSウイルス感染症の方が先です。

症状は、インフルエンザは、全年齢の人にインフルエンザとわかりやすい症状が出ますが、RSウイルス感染症は、初めは発熱、咳等の風邪症状で、この段階

らないようにすることが、最も肝心です。感染経路には、咳、くしゃみなどの飛沫を受けて感染する飛沫感染と、患者の唾液や鼻水が付着したものを触って感染する接触感染があります。

まず患者と接触しないことが最大の予防となります。乳児や高齢者は、RSウイルス感染症が流行する時期には、まず咳をしている人にはできるだけ近づかないで、密接な接触は避けることが重要です。次に、接触感染しますので、手洗いやアルコールによる手指消毒をこまめに

行い、タオルの共用(同じタオルの使い回し)はしない、おもちゃ、食器の貸し借りはしないこと等があります。

集団生活では感染が広がりやすいため、集団生活の場には持ち込まないことが重要です。なお、RSウイルスはアルコールで消毒できるウイルスですので、ドアノブや手すりやアルコールでこまめに消毒することも有効です。

また、RSウイルス感染症の高リスク群とされる、早産児や先天性心疾患のある2歳までの子どもには、予防薬(抗体成分)の毎月接種が保険適用されています。

▽侮るなかれ

元気な成人では、感染していてもインフルエンザより軽い症状であることから、気にもとめず、赤ちゃんや高齢者に接触してしまつてしまう。しかし、乳児では、乳幼児突然死症候群(SIDS)の原因のひとつとされています。高齢者にとつては、「高齢者の命の灯火を消す」ともいわれることから、乳幼児と高齢者には、非常に脅威です。

乳児や高齢者のところに、ウイルスが降って湧いてくるわけはなく、RSウイルス感染の自覚がない学童や成人が持ち込むのですから、流行時期には、周りの人の体調も考える必要があります。

(県感染症情報センター)

乳児と高齢者は注意 治療薬なく予防肝心

ほとんどの乳幼児が2歳までに一度は感染しており、特に生後半年までの乳児は重症化しやすく、肺炎等で入院が必要になります。大きくなると症状は軽くなり、健康な成人では、普通感冒(いわゆる風邪)程度の症状で回復します。しかし、慢性の肺疾患や心疾患がある高齢者は重症化しやすく、死亡することもあります。

▽インフルエンザとの比較

では普通感冒とは区別できません。乳幼児や高齢者では症状が進み、湿性咳嗽(しっせいがいそう)たんがからんだ咳や気管支炎、肺炎へと重症化します。致命率は、乳幼児ではインフルエンザよりRSウイルス感染症の方が高く、高齢者では同程度とされています。

▽予防方法
RSウイルスにはワクチンがなく、治療薬もありません。このことから、うつ

